

個人経営の牧場を法人化し、 後継者にとって負担の少ない継承を実現

Point!

親族は牧場を継ぐ意思がなく、第三者から後継者を探すことに。そんなとき、「この人なら」と思える酪農ヘルパーの青年との出会いがありました。若い後継者に資金面での負担をかけずに牧場をまるごと移譲するため、個人経営だった牧場を法人化。会社の中で徐々に権限を移していきました。

先代 経営者



株式会社井澤牧場 前代表
井澤 熹文(よしふみ)さん

60代になり親族以外で後継者を探していたところ、意気投合した酪農ヘルパーの青井さんに経営継承の話を持ちかける。継承の第一歩として、2011年、66歳で牧場を法人化。2014年に代表を交代。

後継者



株式会社青井牧場 代表取締役
青井 慎一郎さん

大学卒業後、清水町で酪農ヘルパーに。2年目の2008年、井澤さんから声をかけられ後継者となる。2014年、株式会社井澤牧場代表に就任。1年後、すべての資産の移譲を終え、30歳で株式会社青井牧場代表取締役となる。

経営概況

- 所在地：北海道上川郡清水町
- 事業概要：農産物の生産・販売
- 作目・規模：継承前（2011年）酪農 乳牛100頭（経産牛60頭、育成牛40頭）
継承後（2022年）酪農 乳牛150頭（経産牛80頭、育成牛70頭）
- 従業員数：役員1名（代表の妻）

継承までの経緯

- 2008年12月 井澤さん（63歳）が酪農ヘルパーの青井さん（23歳）に経営継承の話を持ちかける
- 2009年1月～ 清水町農業振興公社（担い手センター）に相談、牧場の法人化を進める
- 2009年8月 青井さんが井澤牧場で働き始める
- 2011年1月 株式会社井澤牧場がスタート
社長は井澤さんだが実質的な経営は青井さんに任される
- 2014年3月 施設・設備を井澤さんから会社が買い取り、青井さんが代表に就任
- 2015年4月 会社が土地を買い取り、株式会社青井牧場へ社名変更



就農した頃の井澤さんとご家族



2014年頃の青井さん夫妻

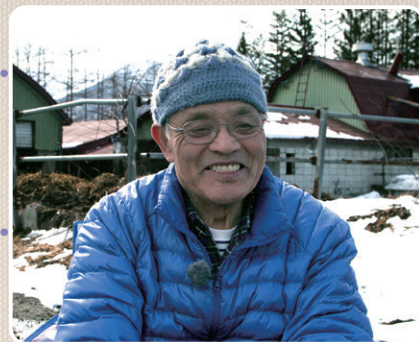
先代経営者 第三者に経営を移譲した井澤熹文さん

個人の牧場を法人化して、施設・設備や土地を無理なくすべて移譲できるようにしました。

第三者の青井さんに移譲しようと思った理由

酪農ヘルパーに来てくれていた青井君の人柄に惹かれたことです。仕事熱心でやる気があり、この人ならと思いました。最初に妻と意気投合したことで、話も早く進みました。

ただ、そのまま譲ると贈与税の負担が大きいので、役場やJAに相談したところ、牧場を法人化してはどうかということになったのです。施設・設備は私個人が会社にリースし、残存価格が下がった時点で会社買い取ることで、後継者に大きな負担をかけることなく移譲できました。



経営継承の話をした頃の井澤さん・青井さん夫妻

早期に継承して良かったこと

牧場がそのまま残せたことです。この牧場は私が一から作りあげた作品のようなものなので、青井君が丸ごと引き受けてくれて本当に良かったと思います。また、私たち夫婦も自由な時間が増えて、妻は趣味の編み物を楽しめるようになりました。

後継者 第三者から経営継承した青井慎一郎さん

牧場主にとって一番大変な時期を、体力のある若い頃に経験できて良かったです。

経営継承の話聞いて

酪農ヘルパーを始めて1年ちょっとの頃でしたから、まだ早いかなとは思いましたが、自分の牧場を持つことを目指していたのでうれしかったですね。

私には牧場を丸ごと引き継ぐ資金がありませんでした。そこで相談の結果、井澤牧場を株式会社にして、私は従業員として働きながら徐々に引き継ぐ形で継承を進めてもらえることになりました。



現在の青井さんのご家族

当時は生乳の生産枠があり、個人で新規参入すると500トンが限度でしたが、井澤牧場では当時700トンくらい搾っていたので、法人化によってその枠も引き継ぐことができました。

早期に継承して良かったこと

牧場の仕事は体力も必要です。牧場主にとって一番大変な時期を体力のある若い頃に経験できたことはとても良かったと思います。